

## 牛白血病の一症例

滋賀県食肉衛生検査所

河村裕江、中山智之、山田 悟

### 〔はじめに〕

牛白血病は、家畜伝染病予防法で届出伝染病に規定されている。例年は3症例程度に遭遇するが、本年度は異例に多く、これまで9症例扱った。そのうち1症例について、他症例と異なる所見を認めたので報告する。

### 〔検体〕

- ・ 獣種：牛
- ・ 品種：黒毛和種
- ・ 性別：牝
- ・ 月齢：30ヵ月齢
- ・ 検体採取日：平成23年7月25日
- ・ 検体採取場所：滋賀食肉センター

### 〔肉眼所見〕

胸部に心臓と肺に癒着するバレーボール大の腫瘤を認めた。腫瘤は表面に大豆大の極めて多数の小腫瘤を伴う。腫瘤断面はやや膨隆で、肉様。胸腺の腫大を疑った。心耳の肥厚、肺リンパ節の腫大、肝臓の腫大、断面膨隆および実質脆弱化、腎臓の腫大、第 胃粘膜のやや肥厚を認めた。その他臓器は、著変を認めなかった。

### 〔スタンプ標本所見：ディフ・クイック染色〕

大小不同の異型リンパ球像を、複数臓器に認めた。核分裂像および多核細胞を、複数臓器に認めた。細網細胞を認めた。

### 〔病理組織所見：HE 染色〕

胸部腫瘤：と畜解体時、胸腺由来と推定した腫瘤の組織切片を鏡検した結果、胸腺特有のハッサル小体は認めなかった。結合組織の増生、リンパ球様腫瘍細胞の著しい浸潤、リンパ小節の喪失、実質内の脂肪変性、うっ血を認めた。

肺リンパ節および腸間膜リンパ節：リンパ球様腫瘍細胞の高度浸潤を認めた。

心筋：ごく僅かだが、心筋間にリンパ球様腫瘍細胞の浸潤を認めた。

心耳：著変を認めなかった。

子宮：リンパ球様腫瘍細胞の組織間への浸潤、血管への囲管性細胞浸潤を認めた。

第 胃：リンパ小節へのリンパ球様腫瘍細胞の浸潤を認めた。

肺：肺胞へのリンパ球様腫瘍細胞の高度浸潤、黒褐色色素(メラニンと推定)の沈着およびうっ血を認めた。

肝臓：小葉間静脈へのリンパ球様腫瘍細胞の囲管性細胞浸潤を散見した。

脾臓：ヘモジデリンの高度沈着およびうっ血を認めた。

腎臓：皮質へのリンパ球様腫瘍細胞の浸潤を若干認めた。

### 〔まとめ〕

胸部腫瘤において胸腺特有の構造であるハッサル小体は認められなかったが、月齢を考慮するとすでに退行していることが考えられた。さらには腫瘍形成により容

が増大していたことも、切片上での出現率の低下につながっていると考えられるため、胸部腫瘍は胸腺であるとするのが妥当であると考えます。

他臓器に認められたリンパ球型腫瘍細胞については、胸腺の腫瘍を原発とするものと推察します。

以上より、次の通り診断します。

- ・ 組織診断名：リンパ腫
- ・ 疾病診断名：牛白血病（胸腺型）

〔まとめ〕

本症例の診断にあたり、ご助言、ご指導いただきました岐阜大学獣医病理学教室柳井教授に深謝いたします。